

九州運輸局メールマガジン

平成 21 年 11 月 20 日 第 58 号 (発行日: 毎週金曜日)

～九州の明日を拓く運輸と観光～

九州運輸局HPアドレス <http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/>

今週も九州運輸局メールマガジンをご覧くださいありがとうございます。

目次

1. 九州運輸局ホームページアップ情報 (11月13日～11月19日掲載分)
プレス発表
入札・契約情報
海技試験制度・合格発表
九州グリーン物流パートナーシップ推進協議会
2. お知らせ
3. 現場リポート
「省エネ促進フォーラム 2009 in 福岡」を開催!
4. 九州運輸局セミナー
「心のバリアフリー」社会を目指して
5. リレーコラム
6. 編集長だより

【九州運輸局ホームページアップ情報】(11月6日～11月12日掲載分)

プレス発表

《観光》

・宿泊旅行統計調査 = 九州版 = (11月13日発表)

～平成21年上半期の集計結果がまとまりました

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press091113.pdf>

《自動車》

・一般貨物自動車運送事業者に対する事業停止処分 (11月17日発表)

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press091117.pdf>

入札・契約情報

・企画競争実施予定情報 (11月18日現在)

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/nyusatsu/pdf/koukyou/kikakukyousou_091118.pdf

海技試験制度・合格発表

・総合合格発表 (10月定期)

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/kaijoanzen/file13/sougou21_11_11.pdf

九州グリーン物流パートナーシップ推進協議会

・メールマガジン 33号

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/kyusyuu_green/mail/pdf/mail_magazine/No_33.pdf

【お知らせ】

12月16日(水)福岡市において第33回九州運輸コロキアムを開催します!
～テーマは「交通運輸業とカーボンクレジット - 低炭素社会の実現に向けて -」

近年の地球温暖化は、地球的な規模での対応が求められる喫緊の、かつ、重要

な問題になっており、わが国においても、鳩山首相が国連の気候変動に関する首脳級会合で2020年までのCO2削減目標を1990年比25%とすることを表明したところです。

今回のコロキウムでは、「二酸化炭素削減のための産官学パイロットプロジェクト」に中心的な立場で取組まれている立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部 塚田俊三 教授をお迎えし、「交通運輸業とカーボンクレジット」をテーマにご講演いただきます。

九州運輸コロキウムは交通・運輸の最新の諸問題について講師にご講演いただき、参加者を交えて討議を行うことにより、参加者全員がテーマについて理解を深めてゆくことを目的としています。皆さんのご参加をお待ちしています。

主催：(財)九州運輸振興センター 後援：九州運輸局
お問合せ先URL：<http://kyushu-transport.or.jp/>

「九州のりもの info.com」のご紹介

「九州のりもの info.com」では、九州内の交通事業者（125社局が参加）の運行(航)状況を、パソコン・携帯電話・地上波デジタル放送を通じてリアルタイムに利用者へ情報提供をしており、台風等の災害時や事故発生時等の遅延状況等が確認できるので大変便利です。

また、ユーザー登録をすると、更新された運行(航)情報等がメールで配信されるサービスを受けることもできますので、是非ご利用下さい。

「九州のりもの info.com」サイトはこちらから
<http://www.norimono-info.com/>
(交通環境部消費者行政・情報課)

【現場レポート】

「省エネ促進フォーラム 2009in 福岡」を開催！

九州運輸局では、地球温暖化問題への理解を深めていただくとともに、人と地球にやさしい運輸を目指すために情報を共有し、今後の省エネ対策の参考としていただくことを目的として、11月17日に福岡市のホテルセントラータ博多において「省エネ促進フォーラム 2009in 福岡」を開催しました。

先ず、主催者を代表して福本局長から、「本日の参加者の皆様が一致協力して、低炭素社会に向けた運輸を目指して、運輸部門における省エネ対策をより一層推進されることを祈念する。」との挨拶があり、フォーラムでは、福岡大学の浅野教授より、「低炭素社会と運輸の取組み」と題して、地球温暖化問題への取組みの重要性について基調講演をいただきました。

次に、グリーン物流の推進に顕著な功績のあった「荷主企業と物流事業者」のパートナーシップに対する、九州グリーン物流パートナーシップ推進協議会の第3回会長表彰式が執り行われ、荷主企業として住電日立ケーブル(株)、タツタ電線(株)、大電(株)の3社と物流事業者として日本貨物鉄道(株)、(株)合通、筑後運送(株)の3社へ村上会長から表彰状が授与され、副賞として「表彰ロゴマーク」が贈呈されました。また、今回表彰された事業者を代表して筑後運送(株)より、事業の内容を紹介していただきました。

続いて、グリーン物流の取組み事例として、(株)湯浅コンサルティングから「中小企業者の環境対策」と題して、日頃から企業者の相談を受け、コンサルティングをされている立場から、全国の企業が取組まれている事例を紹介していただきました。

最後に、環境保全に顕著な功績があったことから、本年、九州運輸局より表彰

を受けられた西久大運輸倉庫(株)から、営業倉庫の屋根に太陽光発電システムを設置した事例やドライブレコーダーの活用によるCO2削減などの取組みの紹介がありました。

当日は、約150名の参加者があり、省エネ対策の取組みへの関心の高さを改めて実感するフォーラムとなりましたが、今回のフォーラムの開催等を通じ今後とも省エネ対策を推進していただきたいと考えています。

当日の様子の写真は、次のURLからご覧になれます。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_58.pdf

(交通環境部環境課)

【九州運輸局セミナー】

「心のバリアフリー」社会を目指して

今日、急速に進む高齢社会への対応や、障害の有無にかかわらず自立した日常生活や社会生活を営むことができる社会を目指すノーマライゼーションが重要な課題となっています。

また、ユニバーサルデザインの考え方を踏まえた「バリアフリー新法」などにより、鉄道駅、道路、建物などのバリアフリー整備は急速に進んできています。

しかし、このような社会への変化をより一層進めるためには、ハード面でのバリアフリー化だけでなく、心のバリアを取り除き、多様な人々の存在をお互いに理解しあい、支えあう『心のバリアフリー』が大切です。また、子どもたちから、バリアフリーの心を持って具体的に行動することの重要性を知ることも望まれます。

このような観点から、地域では、学校、地方公共団体、NPO、ボランティア団体、障害者団体、福祉施設など多様な主体が、お互い連携しながら、子ども達を対象に、バリアフリーの心を持つことの重要性を知ってもらう取組みを行っています。

九州運輸局においても、平成14年から九州各地の駅やフェリーターミナル等の旅客施設等を利用して、小学生等を対象にこれまで50回「バリアフリー教室」を開催し、高齢者・障害者等の擬似・介助体験を通じてバリアフリーについての理解を深めるとともに、ボランティアに関する意識を醸成し、誰もが「お手伝いしましょうか。」と、ごく自然に声を掛けてサポートできる「心のバリアフリー」社会の実現を目指しています。

毎年、12月3日から12月9日までの一週間は「障害者週間」です。消費者行政・情報課では、この期間中に職員向けのバリアフリー教室を開催し、改めて障害者の福祉についての関心と理解を深めていきたいと思えます。

(交通環境部消費者行政・情報課)

【リレーコラム】

～「クルマといっしょに、あしたへでかけよう」福岡モーターショーの成功を～

自動車技術安全部の山村です。来月の11日から4日間、福岡国際センター等に於いて福岡自動車博覧会(福岡モーターショー)が開催される。07年の第一回開催より今回が2度目の開催となる。北部九州圏の自動車生産台数は百万台を超え、百五十万台を目指して自治体をはじめ地域をあげての取組みが進められているところであるが、昨年のリーマンショック以来の世界的な景気後退により、若干水を差された感は歪めない。しかし、何れにしてもこの様なときだからこそ、なおさら明るい取組みが必要であり、何とか経済に弾みがつ

くよう期待したいところである。

ところで、この世に自動車らしき乗り物が誕生して百二十年余りが経ち、技術も目覚ましい進化を遂げてきたが、一向に変わらない物の三つある。それは、ま～るいタイヤとワイパー、それにエンジンの燃焼方式ではないだろうか、中でもドイツの機械技師であるオットーによって実用化された4サイクルエンジン（吸入 - 圧縮 - 膨張 - 排気）の原形は、今日においても全く変わっておらず、その発明が如何に偉大なものであったかを改めて思い知る。ところが、百年以上続いた4サイクルエンジンも新たな転換期を迎えようとしている。

08年の第二次オイルショックとも言われた急激な燃料の高騰や米国の金融不安による世界的な恐慌は、エコカーブームに火を付け、更にはエコカー減税や補助金制度も追い風となり、ハイブリット車にいたっては生産が追いつかないというこれまでにない状況が続いており、その人気に陰りはない。また、三菱や日産自動車にあっては、電気自動車の本格的な量産体制にシフトしており、いよいよ脱化石燃料、ゼロ・エミッション車への転換が現実性を帯びてきた。後二十年もすれば充電インフラの整備も進み、現在のガソリン車も蒸気機関と同じように、遠い昔のことと思われるような時代が来るのかもしれない。その幕開けが福岡モーターショーに込められているように思われる。また、若者層のクルマ離れや免許を取らない人が増える中、自動車本来が持つ移動の楽しさを知ってもらう機会でもある。今回は目標の12万人突破に期待したい。そこで私も是非この目で、最新のハイテクカーとモーターショーには欠かせない美しい華を拝見に出かけることとしたい。メルマガをご覧の皆様方もよろしくお願ひします。

（九州運輸局自動車技術安全部長 山村 澄雄）

【編集長だより】

近頃では朝晩吐く息も白く見えるようになり、冬の足音も聞こえるようになりました。こんな底冷えのする季節になると、あったか～い温泉が恋しくなります。

九州には由布院・別府・黒川・嬉野・武雄・雲仙・霧島・指宿温泉など日本有数の名湯があり、温泉の種類が豊富で泉質が素晴らしいことや宿の風情の良さを考えると、まさに温泉大国といってもおかしくないようです。

また、九州にはいたるところに特色のある温泉施設があります。

私的には川が流れるすぐそばの露天風呂で、川の流れる音を聞きながらちょっと高め（42度位）の温泉にゆったりとつかるのが好きです。日頃の疲れも吹っ飛ばすようです。

皆様もこの冬は自分好みの温泉を探してみたいかがでしょうか。

皆様のお知りになりたい情報・ご意見・ご要望等をお聞かせください。

編集部ではできる限りご要望にお応えしたいと思います。

下記のメール又はファックスからお気軽にお寄せください。

九州運輸局メールマガジン編集長（九州運輸局総務部広報対策官）

森 益隆（もり ますたか）

mail : mm-kyushu@gst.mlit.go.jp

Tel : 092-472-2312 Fax : 092-471-7192

バックナンバーは、次のURLに掲載しています。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/top.html

九州運輸局メールマガジン フォトライブラリー

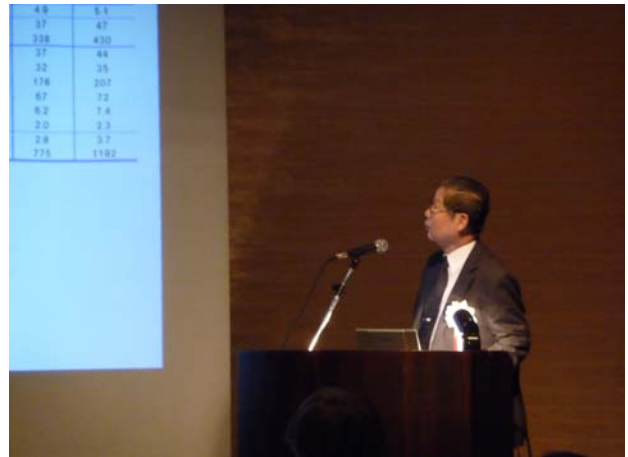
第58号 平成21年11月20日（金）

現場レポート

○「省エネ促進フォーラム2009in福岡」を開催！



主催者を代表しての福本・九州運輸局長の挨拶



福岡大学 浅野教授による基調講演



グリーン物流の取組み事例を紹介する(株)湯浅コンサルティング



西九大運輸倉庫(株)からはCO2削減の取組み等を紹介



九州グリーン物流パートナーシップ推進協議会第3回会長表彰を受賞された皆さん(前列中央は村上会長)